

「他会計振替額」について

1. 新会計基準での他会計振替額

収益事業から公益目的事業に収益を移動する場合の仕訳は次のような仕訳になります。

(収益事業) 他会計振替額 / 現金預金
 (公益事業) 現金預金 / 他会計振替額

これにより、法人全体では、“他会計振替額”が相殺されます。

本来はこのように“他会計振替額”で収入も支出も仕訳を行いますが、運用上次のような科目設定をすると、収入と支出を分けることも出来ます。

2. 振替額を収入と支出に分ける場合の勘定科目の設定

“他会計振替額”を収入と支出に分けた場合の科目設定例は、下記のようにになります。

勘定科目(B/S,P/L)

勘定科目(B/S,P/L)		資金収支の科目(C/F)		
科目コード	科目名	FlgA	FlgB	FlgC
66905	(3)他会計振替額	9	2	1
66910	他会計振替額 (収入)	0	2	1
66920	他会計振替額 (支出)	0	2	1
66990	他会計振替額計	4	2	1

資金収支科目(C/F)

勘定科目(B/S,P/L)		資金収支の科目(C/F)			
連番	科目コード	科目名	FlgA	FlgB	FlgC
9700		他会計振替額	9	2	1
9800	66910	他会計振替額 (収入)	0	2	1
9900	66920	他会計振替額 (支出)	0	2	1
10000		他会計振替額計	3	2	1

上記の設定により。他会計振替額 (収入) は**プラス金額**で、他会計振替額 (支出) は**マイナス金額**で集計され、法人全体での“他会計振替額計”では相殺されます。

。

もし赤丸が 0 になっていたら、1 に修正してください。“FlgC=0”の場合は、支出金額もプラスで表示されて、決算書問題はありませんが、内訳表や前年度実績の“他会計振替額計”が正常に表示されません。

3. 本来の勘定科目の設定

他会計振替額（支出）科目を削除して、他会計振替額（収入）の“（収入）”の文字を削除すると本来の科目になります。

勘定科目(B/S,P/L)

勘定科目(B/S,P/L)		資金収支の科目(C/F)			
科目コード	科目名	FlgA	FlgB	FlgC	
66905	(3)他会計振替額	9	2	1	
66910	他会計振替額	0	2	1	
66990	他会計振替額計	4	2	1	

資金収支科目(C/F)

勘定科目(B/S,P/L)		資金収支の科目(C/F)			
連番	科目コード	科目名	FlgA	FlgB	FlgC
9700		他会計振替額	9	2	1
9800	66910	他会計振替額	0	2	1
10000		他会計振替額計	3	2	1

- ✚ 法人全体の決算書では相殺されます。
- ✚ 内訳表では、収入の部門（公益事業）はプラス金額、支出部門（収益事業）はマイナス金額で表示されます。